第5次
津幡町総合計画

2016 平成28年度 ▶ 2025 平成37年度

はじめに

私たちのまち、津幡町は加賀・能登・越中の三国を結ぶ交通の要衝として栄えてきた歴史に加え、河北潟、森林公園に代表される豊かな自然と、快適で便利な都市環境が共存、調和したまちづくりを進めてきました。その結果、現在では約37,000人の人口を擁する町に発展しましたが、地方分権や少子高齢化、高度情報化、国際化などが進展し、町政を取り巻く状況はより複雑化してきています。また、「地方創生」の動きも加速し始め、地方が担う役割はさらに大きなものになってきました。このような時代の流れ、情勢にあって、より一層の創意工夫と先を見とおした計画をもって臨む必要があります。

「第5次津幡町総合計画」ではまちづくりの将来像を「住んでみたい、ずっと住みたい　ふるさと　つばた」と定めました。そして、その実現に向け、5つの基本目標とその具体的施策のほか、優先的かつ重点的に取り組むべき施策を横断的にまとめた4つのテーマをお示ししています。今後は本計画をまちづくりの指針として、町民の皆様と情報の共有化を図り、それぞれの役割分担と責任のもとに互いに協力しながら着実な施策の推進に努め、孫・さらにその子の時代の礎となるような10年間にしたいと思っております。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました住民の皆様をはじめ、慎重な審議を重ね答申いただいた津幡町総合計画審議会の皆様や関係各位に対し、心から感謝を申し上げます。

平成28年3月

津幡町長　矢田　富郎

目　　次

第1章　序論

第１節　総合計画の策定にあたり …… 3
第２節　津幡町の概況 …… 5
第３節　町民の意向 …… 8

第2章　基本構想

第１節　まちづくりの将来像 …… 15
第２節　まちづくりの視点 …… 16
第３節　まちづくりの基本目標 …… 18
第４節　将来の主要指標 …… 23
第５節　将来の都市構造 …… 26

第3章　基本計画

第１節　基本計画の構成 …… 31
第２節　施策の大綱 …… 32
第３節　優先的に取り組むテーマ …… 34
第４節　基本目標ごとの施策の方針 …… 39
基本目標１　快適で安全・安心を実感できるまち …… 39
1　快適な生活環境の保全 …… 40
2　防災・消防救急体制の充実 …… 44
3　防犯・交通安全対策の充実 …… 48
4　住み良い都市基盤づくり …… 52
基本目標２　地域の魅力を磨き交流と活力が生まれるまち …… 61
1　豊かな自然・里山の保全と活用 …… 62
2　歴史・文化・伝統の継承と活用 …… 66
3　観光・交流の推進 …… 68
4　産業の振興と雇用の創出 …… 72

基本目標3　笑顔があふれ誰もが元気に暮らせるまち …… 79
1　結婚から子育てまで切れ目のない支援の充実…… 80
2　支え合いの福祉社会づくり…… 84
3　心と体の健康づくりの推進 …… 90

基本目標4　未来を見つめみんなで学び成長するまち …… 95
1　未来を拓く豊かで健やかな心身を育む教育の推進…… 96
2　ふるさと意識の醸成 …… 102
3　学びを支える環境の充実 …… 104
4　生涯学習とスポーツ活動の推進 …… 106

基本目標5　ともに支え絆を深めるまち …… 111
1　町民主体のまちづくり…… 112
2　地域コミュニティの活性化 …… 116
3　持続可能な行財政運営の推進 …… 120

付属資料

1　関連する条例・規程等 …… 127
2　策定体制 …… 131
3　審議会委員名簿 …… 132
4　策定委員会、幹事会委員名簿 …… 133
5　策定経過 …… 134
6　諮問書 …… 135
7　答申書 …… 136
8　アンケート調査結果等 …… 137

第1章 序論

第1節　総合計画の策定にあたり

第2節　津幡町の概況

第3節　町民の意向

第1節　総合計画の策定にあたり

(1)計画策定の趣旨

本町では、平成18年3月に第4次津幡町総合計画を策定し、「過去・現在・未来の美しき融合　つばた～人を活かし、心が安らぐまち～」を将来像として掲げ、各種まちづくり施策を展開してきました。

この間、町民の価値観やニーズが多様化するとともに、少子高齢化の進行やICT社会の到来、地方分権の進展、社会基盤の老朽化、自然災害の多発、循環型社会への移行、厳しさを増す財政運営など、本町を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、本町の市街地や骨格となる道路網などのハード整備は、町民から一定の満足度を得られる水準に達しつつあり、今後は本町が有する魅力をさらに高め、本町に暮らす人々が幸せを実感できるまちづくりを実践していく必要があります。

さらに、平成27年3月の北陸新幹線金沢開業の効果をさらに引き込むとともに、将来的な人口減少へ備えるため、交流人口の拡大に向けた施策展開にも取り組む必要があります。

これらの取り組みの推進にあたっては、町が主体となって対応してきた従来の行政運営だけでは限界があり、町民と町の役割分担のあり方を見直し、町民や企業などの多様な主体が一丸となり、まちづくりを実践していく必要があります。

このような現状や課題を踏まえ、今後のまちづくりを進めていくための指針となる第5次津幡町総合計画を策定します。

(2)総合計画の構成

本町の総合計画は、津幡町総合計画策定条例に基づき策定するもので、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されます。

●基本構想

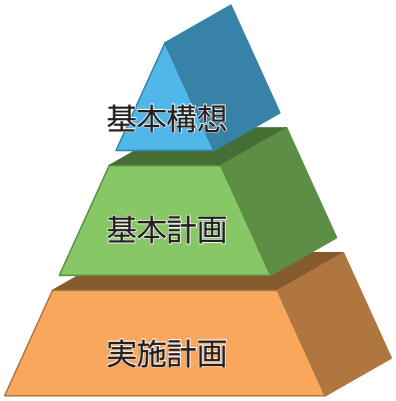
基本構想は、本町の概況や町民の意向を踏まえ、長期的な観点からまちづくりの将来像を設定し、その実現に向けたまちづくりの視点や基本目標などを示すものです。基本構想の期間は、平成28年度から平成37年度までの10年間です。

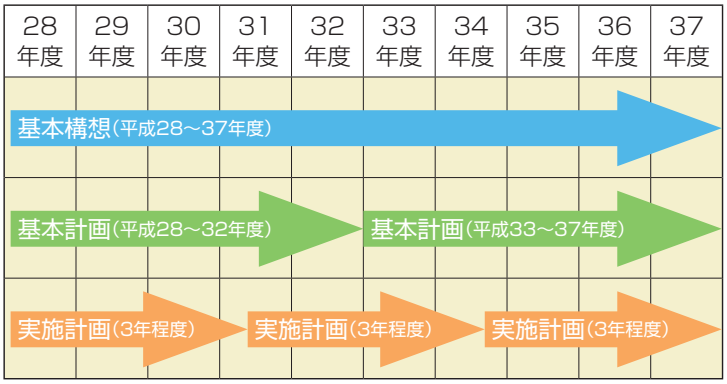
●基本計画

基本計画は、基本構想で定めたまちづくりの将来像や視点、基本目標などを受け、その実現に向け優先的かつ重点的に取り組むべき施策を示すほか、分野別に諸施策を体系的に示し、各種施策の展開などを示すものです。基本計画の期間は、平成28年度から平成32年度までの5年間を前期計画期間、平成33年度から平成37年度までの5年間を後期計画期間とします。

●実施計画

実施計画は、基本計画をもとに、具体的な事業計画となるものであり、財政計画と連動した計画です。実施計画の期間は10年間とし、3年を目処に見直していくものとします。(別冊)





第2節　津幡町の概況

(1)位置・地勢

本町は石川県のほぼ中央に位置し、金沢市、かほく市、内灘町、宝達志水町、富山県高岡市、小矢部市と接しており、古くから加賀・能登・越中の三国を結ぶ交通の要衝として発展してきました。また、県都金沢市には、IRいしかわ鉄道線やJR七尾線、国道8号や国道159号などの主要な道路から容易にアクセスできるほか、北陸自動車道金沢東IC、金沢森本IC、のと里山海道白尾ICなども近接しており、恵まれた交通環境にあります。

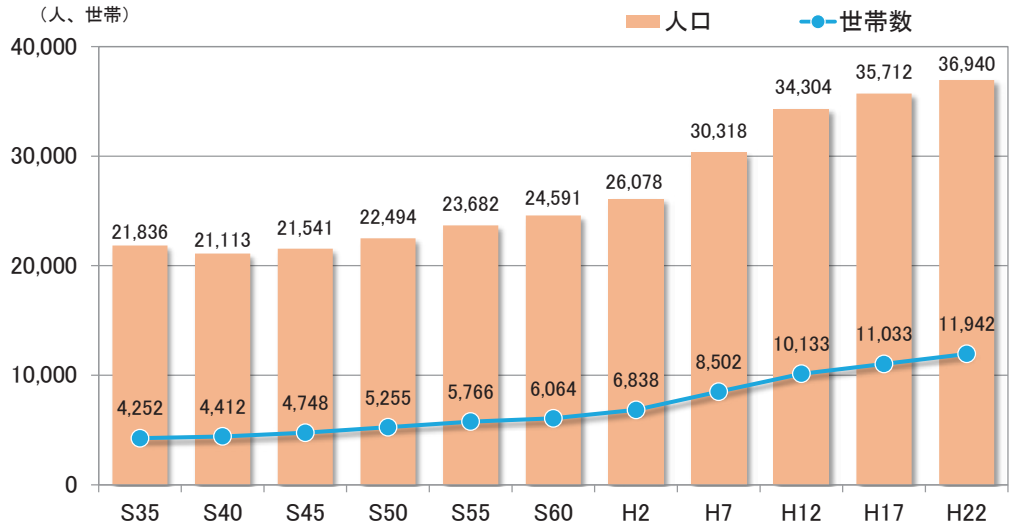
面積は110.59km^{2}であり、その約3分の2が豊かな緑に抱かれています 。北部に河合山(標高417m)、三国山(標高323m)、東部に倶利伽羅山(標高277m)や城ケ峰などの丘陵性山地が連なり、その中に本州屈指の規模を誇る石川県森林公園があります。さらに、西部の平坦地には市街地と優良な農地が広がるほか、河北潟に続く東部承水路には日本海側随一のコースを持つ石川県津幡漕艇競技場があります。

(2)人口

本町の人口は、恵まれた交通環境や金沢市近郊という立地特性などを要因として、昭和60年までは緩やかに増加してきましたが、その後は幹線道路の整備によるアクセス性の向上などに伴う宅地開発により、転入者が大幅に増加し、平成22年時点では昭和60年の約1.5倍となる36,940人となっています。また、人口の増加にあわせ世帯数も11,942世帯に増加しています。

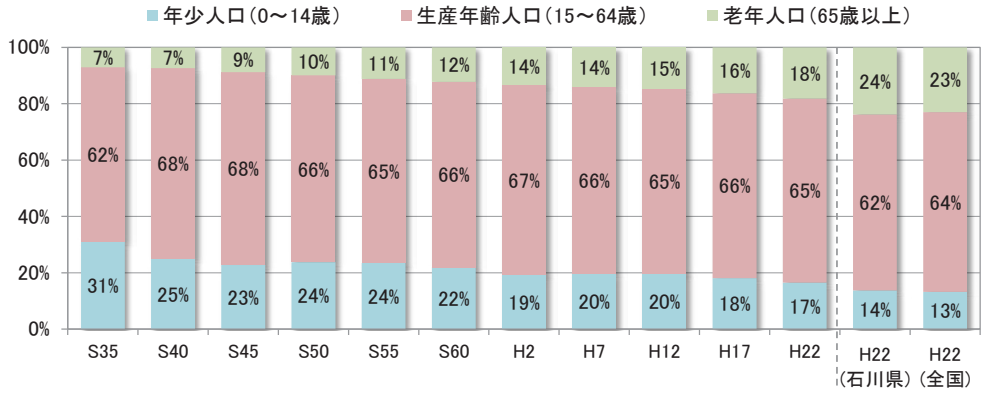
年齢3区分別人口割合の推移をみると、年少人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加しており、平成22年では年少人口に比べ老年人口の割合の方が高くなっています。なお、平成22年の石川県や全国の値と比べると、年少人口・生産年齢人口の割合が高く、老年人口の割合は低くなっています。

▼人口・世帯数の推移



出典：国勢調査

▼年齢3区分別人口割合の推移



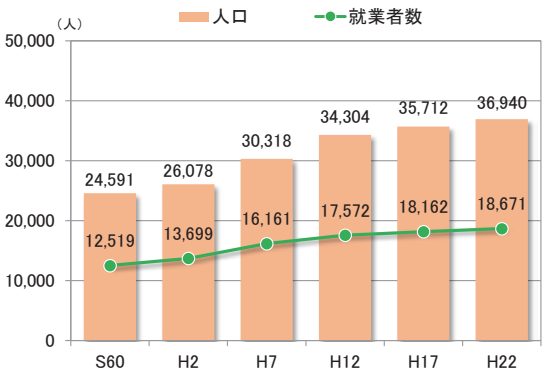
出典：国勢調査

(3)産業

本町の就業者数は、人口の増加と相まって年々増加しており、平成22年は18,671人になっています。

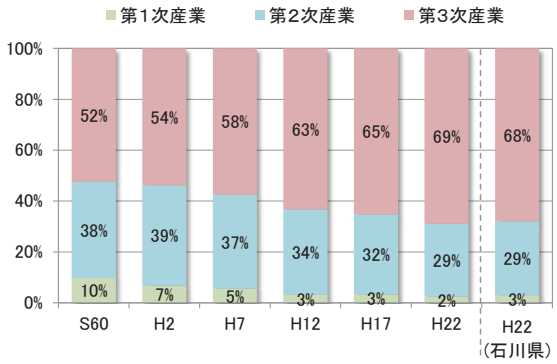
産業別就業者割合の推移をみると、第1次産業の就業者が減少するとともに、第2次産業についても平成2年を境に減少に転じ、第3次産業のみ増加傾向にあります。なお、平成22年の石川県全体と比べると、各産業の割合はほぼ同様となっています。

▼就業者数の推移



出典：国勢調査

▼産業別就業者割合の推移

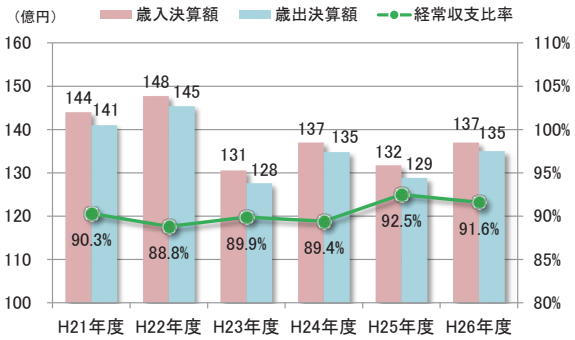


出典：国勢調査

(4)財政状況

本町の財政状況は、平成26年度決算では歳入が137億円、歳出が135億円となっています。また、財政構造の弾力性を示す経常収支比率※1は91.6%と高く、持続可能で安定した自治体運営を行うため、一層の行財政改革が必要となっています。

▼財政状況の推移



出典：市町行財政の概要

▼平成26年度の各種財政指数

	津幡町	県平均
財政力指数※2	0.49	0.50
実質公債比比率※3	13.6%	12.2%
経常収支比率	91.6%	90.1%

※1　経常収支比率　人件費、扶助費、公債費等の容易に縮減することの困難な経常的な経費に対して経常的な一般財源収入（減税補てん債、臨時財政対策債を含む）がどの程度消費されているかを表す。比率が低いほど弾力性が大きい。

※2　財政力指数　基準財政収入額を基準財政需用額で割って得た数値の過去３年の平均値のことで、地方公共団体の財政に力があるかどうかを表す。財政力指数が高いほど財源に余裕があるとされる。

※3　実質公債費比率　一般財源のうち、公債費に割り当てられた額の、標準財政規模に対する割合。この数値が高いほど、財政構造の硬直性の高まりを示す。

第3節　町民の意向

(1)中学生アンケート

●調査概要

・調査対象：津幡中学校、津幡南中学校の全生徒1,250名
・調査方法：学校における直接配布回収
・調査時期：平成26年9月
・回 収 数：1,221通(回収率97.7%)

●好感度、住みやすさ

・好感度では、「好き」と「まあまあ好き」を合わせると約9割を占め、その理由として「祭りやイベント」「自然環境」「図書館や公園」などがあげられています。
・住みやすさでは、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせると約9割を占め、居住年数が長く、好感度が高い人ほど、住みやすさを感じています。

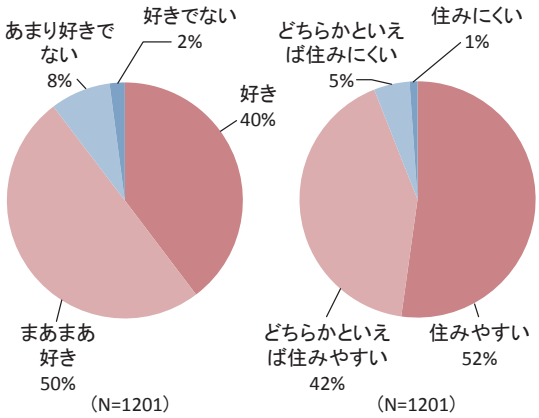
●将来の定住意向

・「このまま住み続けたい」と「進学などにより一時的に離れても、また戻って住みたい」を合わせると7割を占めています。
・今の場所から移り住みたい理由としては、「お店が少なく買い物が不便だから」「娯楽施設などの楽しい場所が少ないから」「働きたいと思う場所が少ないから」をそれぞれ回答者の約5割が選択しています。

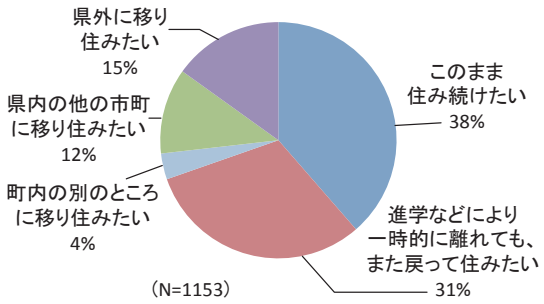
●まちづくりの方向性

・「自然環境を大切にし、ごみや公害が少ない自然豊かなまち」を約6割、「犯罪が少なく、災害に強い安全で安心なまち」を約5割の回答者が選択しています。

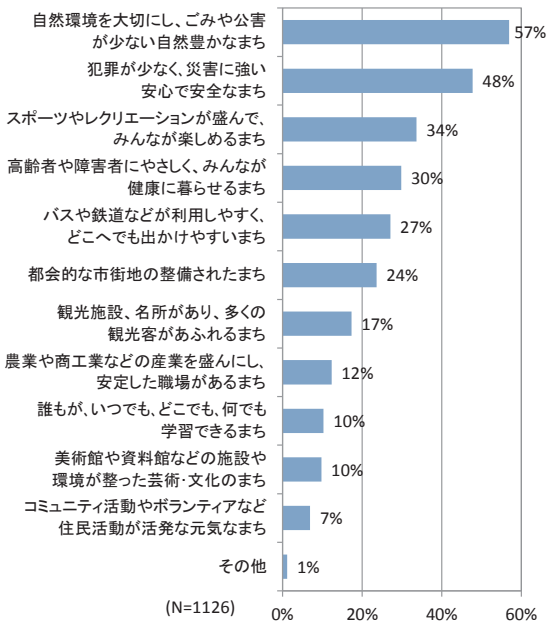
▼津幡町の好感度と住みやすさ



▼将来の定住意向



▼まちづくりの方向性(複数回答)



(2)新成人アンケート

●調査概要

・調査対象：平成26年度成人式参加者368名
・調査方法：直接配布回収
・調査時期：平成26年8月
・回 収 数：238通(回収率64.7%)

●好感度

・「好き」と「まあまあ好き」を合わせると9割以上を占め、その理由としては「自然環境」が最も多いほか、「交通の便」「買い物の便」「治安」「町並みや景観」などがあげられています。

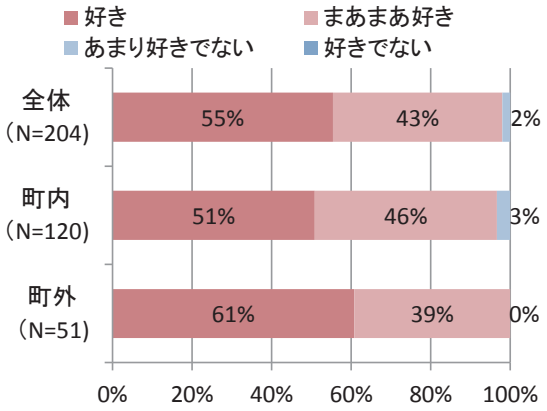
●住みやすさ

・「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせると9割以上を占め、その理由としては「自然環境」が最も多いほか、「交通の便」「買い物の便」「治安」などがあげられています。

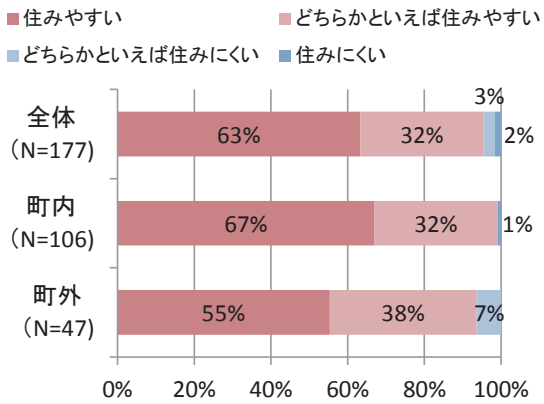
●将来の定住意向

・「津幡町に住み続けたい」と「進学などで一時的に離れているが、津幡町に戻って住みたい」を合わせると約8割を占めており、町外在住者においても約7割を占めています。
・津幡町以外に移り住みたい理由としては、「働きたいと思う場所が少ないから」「お店が少なく買い物が不便だから」「娯楽施設などの楽しい場所が少ないから」のほか、町外在住者においては「電車やバス等の交通が不便だから」を選択した回答者が多くなっています。

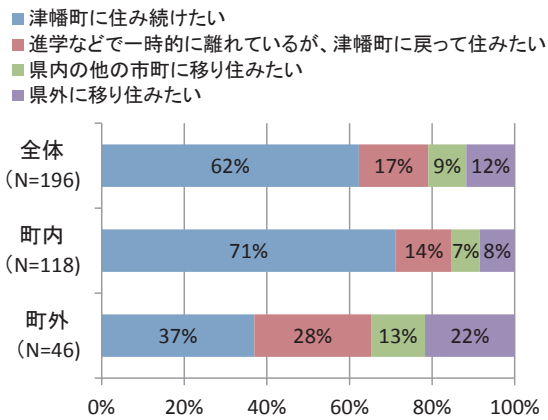
▼津幡町の好感度



▼津幡町の住みやすさ



▼将来の定住意向



(3)町民アンケート

●調査概要

・調査対象：18歳以上の町民3,000名
・調査方法：層化無作為抽出
・調査時期：平成26年8月下旬～9月上旬
・回 収 数：1,148通(回収率38.3%)

●好感度

・「好き」と「まあまあ好き」を合わせると約9割を占め、その理由として「自然環境」「交通の便」「買い物の便」などがあげられています。
・町の第一印象としては、「田舎、田畑が多い」「住みやすい、生活しやすい等」「静かな所、のんびりしている」などがあげられています。

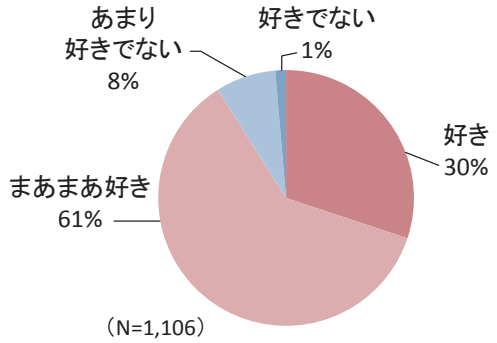
●住みやすさ

・「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせると約9割を占め、その理由として「買い物の便」「交通の便」「自然環境」「生活環境」などがあげられています。
・「どちらかといえば住みにくい」・「住みにくい」の理由としては、「交通の便」「医療機関」「買い物の便」「就労の場」などがあげられています。

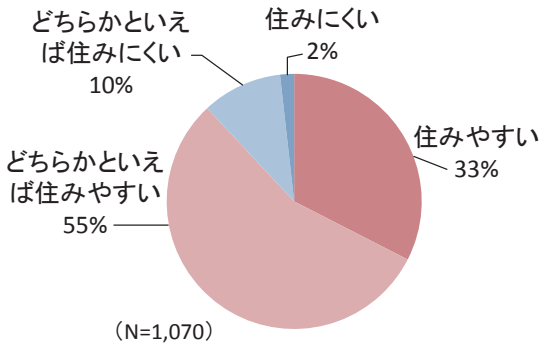
●まちづくりの方向性

・「犯罪が少なく、災害に強い安心で安全なまち」を約7割、「自然環境を大切にし、ごみや公害が少ない自然豊かなまち」「高齢者や障害者にやさしく、みんなが健康に暮らせるまち」をそれぞれ約5割、「農業や商工業などの産業を盛んにし、安定した職場があるまち」を約4割の回答者が選択しています。

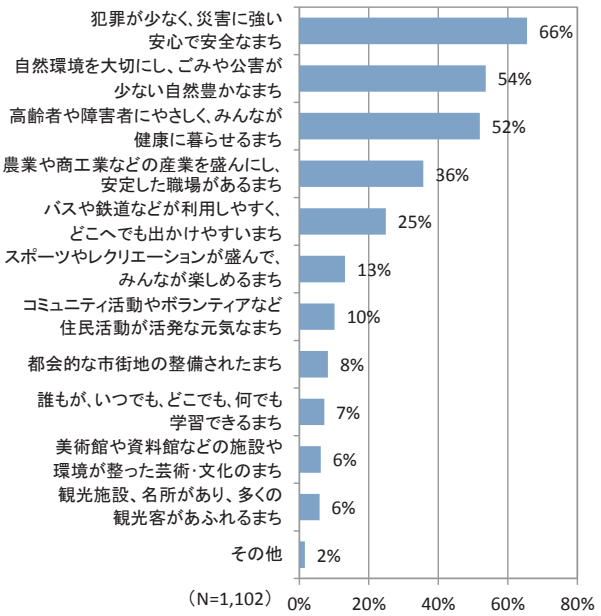
▼津幡町の好感度



▼津幡町の住みやすさ



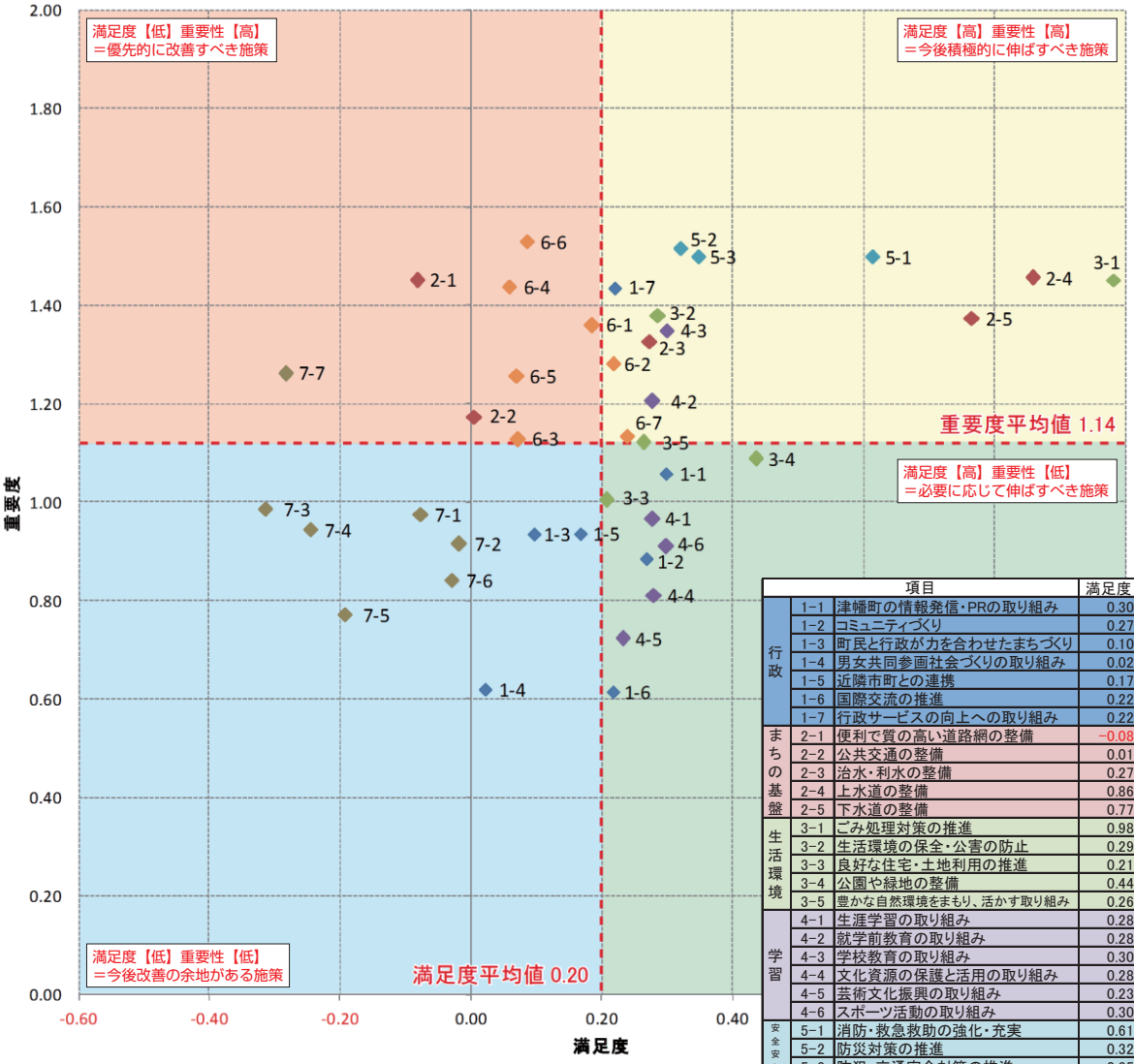
▼まちづくりの方向性(複数回答)



●優先的に改善すべき施策

・満足度が低く、重要度が高い優先的に改善すべき施策としては、「便利で質の高い道路網の整備」「公共交通の整備」などのまちの基盤、「高齢者福祉の取り組み」「障害者福祉の取り組み」「医療体制の取り組み」などの社会福祉、「労働環境の向上・支援」などの産業に関する施策があげられます。

▼各種施策の満足度と重要度の関係



		項目	満足度	重要度
行政	1-1	津幡町の情報発信・PRの取り組み	0.30	1.06
	1-2	コミュニティづくり	0.27	0.89
	1-3	町民と行政が力を合わせたまちづくり	0.10	0.94
	1-4	男女共同参画社会づくりの取り組み	0.02	0.62
	1-5	近隣市町との連携	0.17	0.94
	1-6	国際交流の推進	0.22	0.62
	1-7	行政サービスの向上への取り組み	0.22	1.44
まちの基盤	2-1	便利で質の高い道路網の整備	-0.08	1.45
	2-2	公共交通の整備	0.01	1.17
	2-3	治水・利水の整備	0.27	1.33
	2-4	上水道の整備	0.86	1.46
	2-5	下水道の整備	0.77	1.37
生活環境	3-1	ごみ処理対策の推進	0.98	1.45
	3-2	生活環境の保全・公害の防止	0.29	1.38
	3-3	良好な住宅・土地利用の推進	0.21	1.00
	3-4	公園や緑地の整備	0.44	1.09
	3-5	豊かな自然環境をまもり、活かす取り組み	0.26	1.12
学習	4-1	生涯学習の取り組み	0.28	0.97
	4-2	就学前教育の取り組み	0.28	1.21
	4-3	学校教育の取り組み	0.30	1.35
	4-4	文化資源の保護と活用の取り組み	0.28	0.81
	4-5	芸術文化振興の取り組み	0.23	0.72
	4-6	スポーツ活動の取り組み	0.30	0.91
安全安心	5-1	消防・救急救助の強化・充実	0.61	1.50
	5-2	防災対策の推進	0.32	1.52
	5-3	防犯・交通安全対策の推進	0.35	1.50
社会福祉	6-1	地域福祉の取り組み	0.19	1.36
	6-2	児童福祉・子育て支援の取り組み	0.22	1.28
	6-3	ひとり親家庭福祉の取り組み	0.07	1.13
	6-4	高齢者福祉の取り組み	0.06	1.44
	6-5	障害者福祉の取り組み	0.07	1.26
	6-6	医療体制の取り組み	0.09	1.53
	6-7	健康づくりの取り組み	0.24	1.13
産業	7-1	農業の振興	-0.08	0.98
	7-2	林業の振興	-0.02	0.92
	7-3	商業の振興	-0.31	0.99
	7-4	工業の振興	-0.25	0.94
	7-5	観光の振興	-0.19	0.77
	7-6	消費者生活の向上への取り組み	-0.03	0.84
	7-7	労働環境の向上・支援	-0.28	1.26
平均			0.20	1.14

まちの風景（おすすめスポット採用作品）

倶利伽羅からの眺望

上藤又の大椿

能瀬水門からの夕日

緑が丘の桜林